

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		-	-	-
(四国)		乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・初売りイベントがあり、数か月前に比べ良くなっている。
		通信会社(営業 部長)	販売量の動き	・販売数については前年減が定着してしまっているが、減数が徐々に少なくなっている。商品価格も以前より高くはなっているが、一定数の販売はできている。
		競輪競馬(マ ネージャー)	販売量の動き	・今年1月は売上高が前年10月比で2割増加した。年末年始の消費増大傾向の時期にある点を勘案しても、客の消費志向が少し上向いたと推測される。
		商店街(代表 者)	それ以外	・10月の消費税増税後、かなり売上が減少しており、1月も結構悪い。また、キャッシュレス・消費者還元事業の複雑さが消費者のマインド上昇の妨げとなり、しばらく売上の減少が続いていく。
		商店街(事務局 長)	販売量の動き	・消費税増税後の駆け込み需要の反動減から徐々に消費回復に向かおうとしているが、今度は新型コロナウイルスの拡大により、人の動きや経済活動が制限を受けることになっている。モノ消費が厳しさを増すなかで、ここ数年好調に推移してきたコト消費へのダメージが懸念され、残念である。
		百貨店(営業管 理担当)	来客数の動き	・今年は年始の曜日の並びがよかったことも影響し、初商いの客足が分散している。例年と比較して客数・売上共に盛り上がり欠ける結果となった。今月の後半は、前年並みに推移したが、前半の苦戦が影響し、月全体としては苦しい商況となった。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・気温が高く、野菜の相場安が続いている。しかも買上点数が伸びず、非常に厳しい状況が続いている。
		コンビニ(店 長)	来客数の動き	・客数に変化はない。単価は上昇しているが、その要因は消費税増税である。軽減税率やキャッシュレス・消費者還元事業など政府の施策で現状が維持されている。
		衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・暖冬の影響でコートの販売が不振である。前年比95%程度で推移している。重衣料が動かないので客単価が低く、売上が伸びていない。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・暖冬のため野菜が豊作で単価が安い。また、鍋物に使用するしいたけの消費が少ない。消費者には良いことだが、生産者にとっては厳しい暖冬となっている。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・消費税増税後の景気回復というにはまだまだの状況である。
		美容室(経営 者)	お客様の様子	・新規の客は少ないが、既存の客は割と安定して来店している。
		設計事務所(所 長)	お客様の様子	・市内中心部の中古マンションでは、当初の販売価格よりも値上がりしている物件がある。
		商店街(代表 者)	それ以外	・地方都市の抱える人口減少、過当競争、消費の低迷などの状況は進行するばかりで改善策が見いだせない。今後も打開策を見付けるのは極めて難しい。まちづくり三法の見直しを積極化すべきだが、まだまだ自治体や一般市民にコンパクトシティが必要とされている段階だ。
		商店街(代表 者)	販売量の動き	・売上金額が前年比で微減しており、近隣の状況を聞いても余り良い話はなく、厳しい状況が続いている。
		一般小売店[生 花](経営者)	来客数の動き	・キャッシュレス・消費者還元事業が始まってから年末までは、目新しさもあり来客は増えたが、正月を過ぎてからは来客数が激減した。例年、来客が少ない時期ではあるが、今年は特に少なく、繁華街の歩行者も少ない。
		一般小売店 [酒](販売担 当)	お客様の様子	・消費税増税の影響のせいか、消費者の外食控えで料飲店への納品が減少している。
		一般小売店[書 籍](営業担 当)	単価の動き	・単価の高い物は余り売れていない。単価が500円以下の安い商品が売れている。
		百貨店(販売促 進)	来客数の動き	・海外からの観光客数は変わらないかもしれないが、買物をする金額・点数は減っている。

	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・年末年始を過ぎると売上が落ちるのは通例であるが、客数の前年比が低かった12月よりも更に低い傾向にあった。年末年始の休暇が長く出費がかさんだのが原因とみられるが、1月末の動きも今一つ順調には回復していない。
	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・暖冬で鍋物関連が不振で、買上点数が低調である。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・正月に一部のスーパー、ドラッグストアの休業が実施されるので、コンビニの売上増を期待していた。しかし、結果は前年割れと期待外れで、世論のようにコンビニの正月営業は無駄なのかもしれない。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・10月から売上が低迷しており、やはり消費税増税の影響が尾を引いている。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月はバーゲンセール月でもあり、売上だけを言えば、1年間を通して1番良い月に近いのが通例である。しかし、今年は気温や消費税増税が影響しているのか分からないが、利益は全体的に少し下降気味で、微減で終わっている。
	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・暖冬の影響で季節商材の販売不振が続いている。
	その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	来客数の動き	・消費税増税後、客数の減少が続いており、回復の兆しが見えない。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・毎年のことであるが、年末年始の反動で来客数は落ち込んでいる。
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・最近、消費税増税がじわりと効いてきた。というのは、飲食部門、レストラン部門の落ち込みが、今年になって顕著になってきたからである。
	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・国内を含め新型コロナウイルスの感染状況が拡大し、旅行需要が低下している。
	通信会社（技術）	販売量の動き	・新規獲得数に比べて解約数が増加している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子
	×	タクシー運転手	来客数の動き
	-	-	-
企業 動向 関連 (四国)	金融業（副支店長）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税後の買い控え分が一定程度は戻ってきた。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・暖冬の影響を受け、青果物の販売取引は品目によって生産・出荷量、販売・取引の両面で例年になく格差が大きい。きゅうり等の果菜類は好調だが、白菜・キャベツ等の葉菜類が低調であるため、野菜全体では厳しい販売環境が続いている。その要因は、果菜類は産地が限られ、品目的に気温より日照量が作柄に大きく影響するからである。暖冬により太平洋側は曇雨天日が多く、生産・出荷量が減り、単価高傾向である。葉物類は産地が多く、平年なら雪で収穫できない産地からも出荷があるなど、生産・出荷量が多く単価安となっている。消費も鍋需要が例年より少なく、これに伴い全体消費量も減少している。
	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が未知数であることが挙げられる。
	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・暖冬の影響で冬向けの製品は低調である。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の動きに目立った変化はない。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は増加しているが、一向に利益が出ないという状況である。いろいろな要素があり、景気の良さあしの判断はできないため、変化なしとした。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の発注が順調に推移し、例年どおり、業務進捗度が向上し、売上業績も予想どおりである。ただし、人手不足や単価上昇により、利益率は改善されておらず、数か月前から変わらない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年は変わったが、公共、民間とも、工事の予定が少ない。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月までは都市部を中心に受注が好調であったが、今月に入ってからは低調である。要因としては地方都市での人口減少、人手不足による中小企業の低迷、消費買い控えなどの構造的要因に加え、新型コロナウイルス問題のあおりでインバウンド観光客の減少が起き、観光地の小売店からの注文が急速に落ち込んでいるからである。例えば、前年未まで海外客でにぎわっていた浅草周辺の小売店は、通常は週1回発注があるが、ここ2週間注文が途絶えている。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・しばらく産業用機械の受注案件が減少傾向にある。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後に当たる第3四半期以降における小口積合わせ貨物の取扱物量については依然として前年割れが続いており、景気の減速を強く感じる。特筆すべきは本州から四国向けの輸送において、長年提携してきた連絡運輸会社にも、より中継運賃の安価な他社への切替えを図るところが出てきた点である。運賃値上げ交渉の停滞や物量減少によるダメージが以前より深刻化しているものと推察される。
	輸送業（経理）	取引先の様子	・年末年始商戦が一息つき、暖冬の影響もあり冬物商材物流が鈍化している。海外との貿易についても活発とはいえない程度で推移している。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各法人の決算、試算表を分析すると、前年比で、若干、業績が落ちている企業が目立っている。そういうことから、景気はやや悪くなる傾向にあるのではないかと心配している。
	x 木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注状況が悪くなっていると感じている。他社の動向を確認したが、11月くらいから各社とも落ち込んでいると聞いている。
雇用 関連 (四国)	-	-	-
	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・働き方改革という言葉が世間に浸透して、目に見える形としてはノー残業体制を図る企業が増えてきた。雇用形態も常勤社員と非常勤社員における業務分掌は明確にしていき、同一労働同一賃金への取組も進んでいる。無駄な経費の削減により、景気も良くなっていくのではと考える。
	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・同一労働同一賃金を控え、派遣料金の改定に応じる企業が増えている。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・高校卒業予定者の内定率も前年並みで事業所の採用意欲は変わらず、景気動向にも大きな変動はない。
	職業安定所（求人開発）	それ以外	・12月の有効求人倍率は1.71倍で、3か月前と比較して増加しているが、前年同月と比較すると減少となっていること、企業整備情報が月に数件あるが、大規模ではないこと等を総合的に考えて「変わらない」と判断した。
	民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・最近、介護施設を集中的に訪問しているが、施設側から、中途採用として若い年齢層の応募が多くなったとの声を耳にする。介護職の人数は、まだまだ圧倒的に不足しているという現状の中で、若い方々が力を発揮できるように、待遇面、福利厚生面の充実が早急に求められているのではないかと考えている。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・大学3年生の就活スタートが目の前であるが、学生優位の状況が継続している。また、4年生の求人も卒業前にもかかわらず、まだ一部の中小企業等では継続している。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・中途採用がうまくいっておらず、人手不足のまま事業を行っている地場の中小企業が多い。そのため、受注量や業務量に制限が出てしまい、売上・利益とも縮小傾向にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・当県の広告業界では明るい題材は少ない。官公庁くらいしか安定したものはないがマス告知は低調で推移している。

	×	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・人手不足により、外国人労働者の採用など少し変化が起 こっている。
--	---	------------------	--------	--------------------------------------